

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	21	事業名	自然環境保全事業 (大事業名) 環境基本計画推進事業		担当課		環境課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		4-1-3-3 自然環境保全事業		
					決算書ページ		154 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	3	みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物		事業開始の背景	地球温暖化対策や自然環境の保護は、地球全体の問題として、対応が必要である。		
		政策	1	万博理念を継承した自然との共生					
		施策	(1)	豊かな自然環境の保全・活用			市民・民間事業者との連携協働の可能性 両者と協働可		
	その他	開始年度							
		終了予定年度		☐ 年度 ☒ 未定					
		根拠法令等		生物多様性基本法、生物多様性地域連携促進法等					
	関連計画		長久手市環境基本条例、第4次長久手環境基本計画						
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）					アウトカム（詳細はⅢへ）		
		①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【対象】 ☒ 市民 ☒ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000人+事業所		【アクションプラン指標】 二ノ池湿地群保全管理計画推進協議会の開催【単年】 自然環境保全アドバイザー会議の開催【単年】 自然環境調査への市民参加者数【単年】 自然観察会・勉強会参加者【単年】 【その他の指標】 外来種勉強会及び駆除イベントの参加者数【累計】		人と地域がつながり、自然と環境にこだわるまちを目指して行動する人々が増える。 (成果指標名) 【アクションプラン指標】 自然観察会・勉強会開催回数【単年】		大事業共通 くらしの安心や健康、幸せや豊かさを実感できる。 環境を通じて、地域、自然、世界とつながる物語が生まれる。	
第4次長久手環境基本計画で「脱炭素のくらしと地域づくり」「循環型のくらしと地域づくり」「自然共生のくらしと地域づくり」「安全・安心のくらしと地域づくり」を実現するための施策を行う。令和6年までの5年間に重点的に取り組む施策を「重点プロジェクト」に設定し、実行する。									

活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	
活動指標	1	【アクションプラン事業】 二ノ池湿地群保全管理計画推進協議会の開催【単年】	回	基準値	1	見込	1	1	1	1	
				目標値	1	実績	1				
	2	【アクションプラン事業】 自然環境保全アドバイザー会議の開催【単年】	回	基準値	1	見込	1	1	1	1	
				目標値	1	実績	1				
	3	【アクションプラン事業】 自然環境調査への市民参加者数【単年】	人	基準値	245	見込	245	255	265	275	285
				目標値	295	実績	245				
	4	【アクションプラン事業】 自然観察会・勉強会開催回数【単年】	回	基準値	1	見込	1	1	1	1	1
				目標値	1	実績	1				
	5	【その他指標】 外来種勉強会及び駆除イベントの参加者数【累計】	人	基準値	50	見込	200	－	－	－	－
				目標値	200	実績	341				
	6			基準値		見込					
				目標値		実績					
エピソード											
事業開始からの経緯											
第4次長久手市環境基本計画（令和3年度～）を策定した。お披露目会として長久手市の気象についての講演会を実施し、環境問題が生活に密着していることを市民に発信した。 令和4年に第29回湿地サミットを長久手市で開催。（県下14市町で構成。長久手市での開催は、平成20年度以来。）											
R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
・環境保全団体の保全活動中に、モニタリング調査を実施した。											

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標									
		【アクションプラン指標】 自然観察会・勉強会開催回数【単年】	回	R4 年度		年度		【現状】 R5 年度		年度		R9 年度	
				1			1			1			
		成果達成状況					指標目標値の根拠						
		B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					第4次環境基本計画において、2030年までの取組のキーワードを、「人づくり・地域づくり」としている。 市民一人ひとりによる生物多様性の危機的状況や重要性の十分な理解や、将来の担い手となる人材発掘により、下地を育むため、毎年度、1回以上の自然観察会や勉強会の開催を継続する。					
	評価の理由、分析												
	令和4年度の第29回湿地サミットの長久手市文化の家での開催を踏まえ、運営に従事した市民ボランティアスタッフを中心とした自然観察会を実施した。自然環境保全の啓発のため、自然観察会や勉強会を開催していきたい。												
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由									
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		市民活動団体による自然環境保全活動を支援しながら、貴重な本市の環境を保全していきたい。 貴重種の生息する地区は、県有地または私有地のため、市が直接的な整備事業を行うものではなく、啓発活動と市民の保全活動を支援する。								
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)											
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容							見直し可能年度			
1			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止										
2		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											
3		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											

R7年度の費用（R6年度比）		令和7年度予算の方向性（PLAN）	3年間の推移	（単位：千円）	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止			事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
					3,341	2,767	2,796	3,935	3,673	
理由				特定財源	合計額					
R7年度はR6年度と同等の内容の施策を進めるため。					（内 国費）					
					（内 県費）					
					（内 諸収入）					
					（内 その他）					
積算額				一般財源	3,341	2,767	2,796	3,935	3,673	
未定				R6年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R5年度予算額）＞						
				自然環境アドバイザー報償金 73,000円（73,000円）						
				消耗品費 100,000円（10,000円）						
				自然環境保全等事業委託 3,168,000円（2,684,000円）						